学界情報

The 8th World Congress on Railway Research
May 18-22, 2008, COEX, Seoul, Korea

2008 年 5 月 18 日から 22 日までの 5 日間，WCRR2008 が韓国のソウルで開催された。WCRR(World Congress on Railway Research)は，フランス，アメリカ，イタリア，日本，ドイツ，英国および UIC(The International Union of Railways)によって主催されている国際的な鉄道研究の会議である。1994 年から開催されており今年で第 8 回を迎えた。今回の会議には世界 50 ヶ国から約 800 名が参加し，日本からの参加者は約 80 名となっている。韓国が開催場所であったためか，通常の国際学会に比べ，日本人を含めたアジアの人々の参加が多いと感じた。

発表については，3 日間で 186 件の Oral Session が 6 つの部門（Global Railway Issues, Human Factors, Infrastructure, Operation, Rolling stock, System Interaction）に分けられ 4～6 の会場で実施され，また，2 日間で 95 件の Poster Session が会場内の展示ブースで並行実施された。どの会場も聴講する研究者・技術者で満席となっており，発表後の質疑応答の時間では活発なディスカッションが行われていた。また各セッションの合間には Coffee Break の時間が設けられ，時間の都合上発表中に確認することが出来なかった意見・質問などについて，引き続き議論を行っている光景が見られた。また，各日の一般セッション前には Plenary Session が行われ, 下記の 3 つの題目についてそれぞれ 3 人の Plenary Speakers による講演が行われた。

- ”Technology Innovation and its Implementation around the World”
- ”Impact of Technology to Improve Capacity and Efficiency”
- ”Towards a Global Railway”

19 日の Plenary Session 1 では，鉄道総研の内田雅夫理事が ”Technology Innovation in Asia and its Implementation around the World”という演題で日本の鉄道の技術革新について講演を行った。

企業展示については，地元韓国の企業を中心に約 60 社のブースが出展しており, 日本の企業も 4～5 社出展していた。開催時間中には，各国の研究者がブース巡りをしており，担当者と意見交換している光景を多く見かけた。

開催初日には Welcome Reception，発表 2 日目には Gala Dinner が行われ研究者同士の親睦を深める場が設けられた。Gala Dinner では，韓国の民族楽器である三面の太鼓を女性が打ちながら舞う「三鼓舞」やマジシャンによるマジックショーがあり観客を魅了していた。

21 日の Closing Session では表彰式が行われた。Oral Session の 6 つの部門と Poster Session, Young Researcher の 8 部門について各 1 件ずつ The Best Paper Award が贈呈された。Oral Session の Rolling Stock 部門で JR 北海道の井原禎之氏の論文が The Best Paper Award を受賞した。題目は，”Development of Motor-Assisted Hybrid Traction System”であり，著者は井原氏を筆頭に，JR 北海道，日立ニコトランスミッションの研究者・技術者の連名である。日本の論文が The Best Paper Award を受賞したことは大変喜ばしいことである。

22 日の Technical Visits では，韓国の車両基地や交通管制センター，鉄道技術研究所の見学や新型車両の試乗会などが行われ，韓国の鉄道技術に触れることができた。

次回の WCRR は 2011 年 5 月 22 日から 26 日にフランスのリールで開催される予定である。多くの日本人研究者の参加を期待している。

写真１　発表会場（Convention & Exhibition Center）

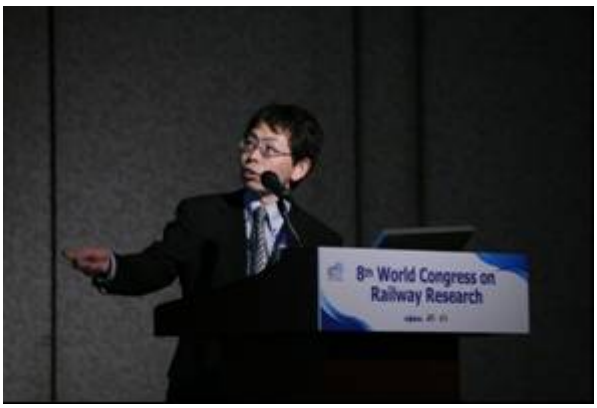

写真２　講演中の筆者

小林　武弘〔(財)鉄道総合技術研究所〕

（平成 20 年 6 月 4 日受付）